

保健物理学会 第2回臨時委員会（国民線量） 議事概要

1. 開催日時 平成30年6月12日（火） 13:30-16:10
2. 開催場所 田中田村町ビル・貸会議室（「会議するなら」新橋会議室）
8階 8Cルーム（東京都港区新橋 2-12-15）
3. 出席者 古川、大森、小野、高橋、平尾、細田
4. 議事
 - 1) 委員長 説明
 - 2) 国民線量算定に際して不足しているデータの洗い出し
 - 3) 国民線量について論文化する具体的項目の決定
 - 4) 国民線量に関する論文の執筆分担（著者選任）
 - 5) 保物札幌大会での発表内容
5. 配布資料
資料1 保健物理学会 第1回臨時委員会（国民線量） 議事概要
6. 議事概要（議事順に記載）

1) 委員長 説明

- ・ 古川委員長より、6月末の保健物理学会総会の中で報告予定の当委員会の実施状況及び今年度の実施計画が紹介された。この実施計画で報告予定の委員会の取りまとめ、6月末の研究発表会での委員会報告へ向けて、必要な検討を行うため、今回の会合を開催した旨、説明があった。

2) 国民線量算定に際して不足しているデータの洗い出

① 自然放射線

- ・ 高橋委員より、ラドン・トロン（子孫核種の影響を含む）による内部被ばく線量評価に用いる線量係数について、ICRPが本年1月にPubl.137にて公開した点が報告された。

② 医療放射線

- ・ 小野委員より、OECD/NEAでの医療被ばくに関する統計データに対し、その基本とされたと想定される国内のデータの報告があった。ここでは、米国での医療被ばくに関するデータの収集状況も紹介された。さらに、当該データを活用することで、医療被ばくに関するデータベースを構築できる可能性のあることが説明された。

3) 国民線量について論文化する具体的項目の決定

- ・ 古川委員長より、委員会として自然放射線による国民線量について、レビュー論文として取りまとめる方針が示された。
- ・ 最初のステップとして、国民線量導出の基礎となる最新のモニタリングデータ、国民の生活に関する統計データ等をレビューし、自然放射線によるバックグラウンド線量を議論するというここを確認した。
- ・ 既に報告されている宇宙線を除き、大地 γ 線、ラドン・トロン及び食品中放射能による線量について、論文を取りまとめることとした。

4) 国民線量に関する論文の執筆分担（著者選任）

- ・ 先ずは、委員の中で、取りまとめを進め、必要に応じて学会内のメンバーに協力を仰ぐこととした。（暫定案として、大地 γ 線及びラドン・トロン：細田委員、大森委員、平尾委員、食品中放射能：真田委員、高橋委員がそれぞれ中心となり、古川委員長は何れの論文執筆にも関与する。）
- ・ 投稿先、英文校閲及び成果の帰属先については、学会長などの関係者に確認することとした。

5) 保物札幌大会での発表

- ・ 本会合の議論を踏まえた取りまとめ方針等の計画について、古川委員長が報告し、各委員は発表準備や当日の質疑応答へ協力することを確認した。

以 上